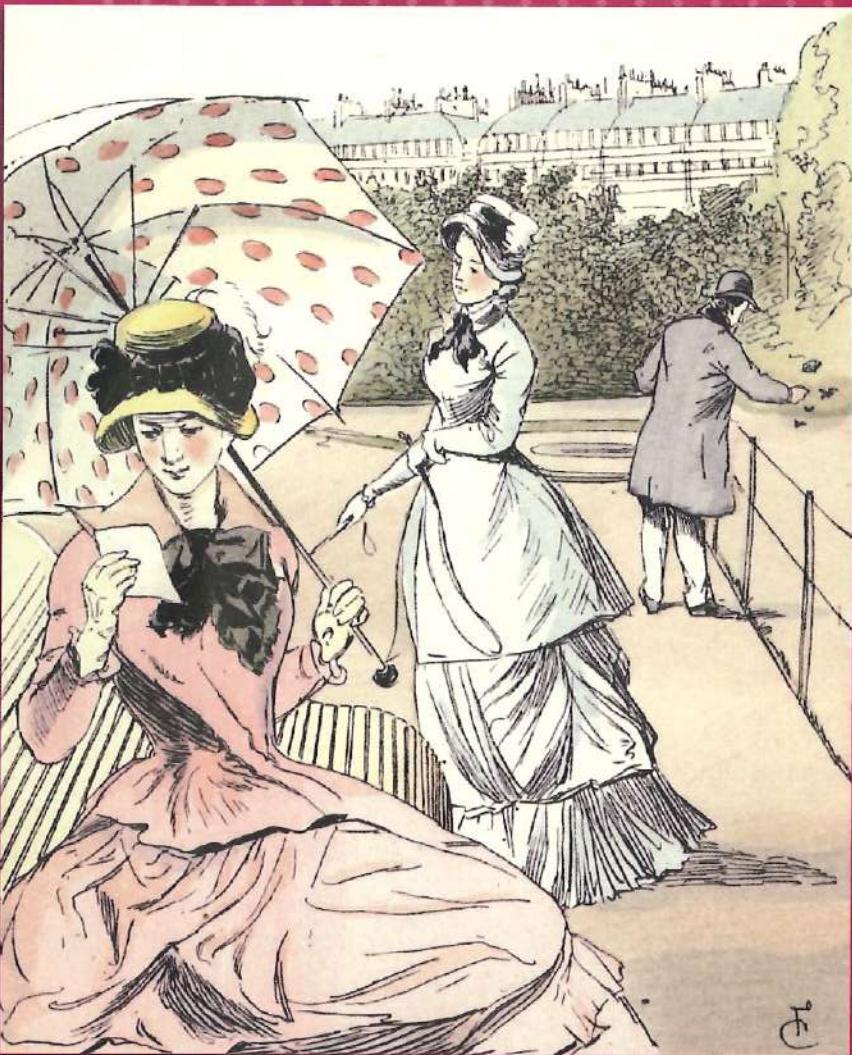


## ユザンヌ著作集：19世紀パリの女性とファッション



◆ Octave Uzanne

**L'Éventail** (1882) & **L'Ombrelle, le Gant, le Manchon** (1883)

ISBN 978-4-86340-294-2 • 306 pp., incl. 4 col. pp. • B5判

全1巻 定価 本体 30,000円+税

**La Femme à Paris. Nos contemporaines: Notes successives sur les Parisiennes de ce temps dans leurs divers milieux, états et conditions** (1894)

ISBN 978-4-86340-295-9 • 388 pp., incl. 126 col. pp. • B5判

全1巻 定価 本体 38,000円+税

**Monument esthématic du XIX<sup>e</sup> siècle. Les Modes de Paris: Variations du goût et de l'esthétique de la femme, 1797-1897** (1898)

ISBN 978-4-86340-296-6 • 356 pp., incl. 103 col. pp. • B5判

全1巻 定価 本体 42,000円+税

## 『扇』+『パラソル 手袋 マフ』

◆ Octave Uzanne

*L'Éventail*(1882) & *L'Ombrelle, le Gant, le Manchon*(1883)

ISBN 978-4-86340-294-2 • 306 pp., incl. 4 col. pp. • B5判

全1巻定価 本体 30,000円+税

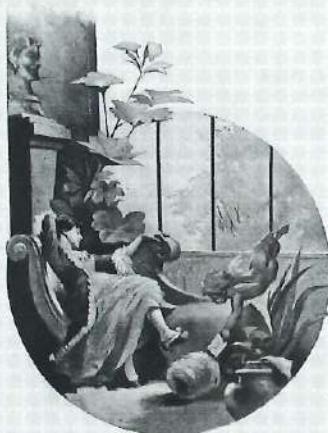
2タイトルを合本して復刻。ともに女性の装飾品について企画されたシリーズものを構成するタイトルであったが、実際これ以外は刊行されなかった。歴史研究を意図したものではなく、「ご婦人の私室に備える小さな本」としてのものである。共にQuantin社刊行、装飾性が高い華美な構成で、挿絵は性愛小説のイラストレーターで知られるPaul Avril(1849-1928)。

L'éventail

L'ombrelle • Le parasol • Le parapluie

Le gant • La mitaine

Le manchon • La fourrure



## 『パリの女性 我々の同時代人: さまざまな階層・境遇・環境におけるこの時代のパリジェンヌ』

◆ Octave Uzanne

*La Femme à Paris. Nos contemporaines: Notes successives sur les Parisiennes de ce temps dans leurs divers milieux, états et conditions*(1894)

ISBN 978-4-86340-295-9 • 388 pp., incl. 126 col. pp. • B5判

全1巻定価 本体 38,000円+税

ユザンヌの重要著作の一つ。ファッションの世界を飛び越えて、フランスのあらゆる階層の女性の姿を広めた。パリの働く女性の多くは服飾産業関連で雇用されており、縫製や販売に携わる女性の様子を調べた。そのほか、女性芸術家、女優、家政婦、売春婦についても取り上げている。

文芸作品の挿絵画家Pierre Vidal(1849-1913?)の挿絵が用いられている。

表紙はポーランド系フランス人画家Léon Rudnicki(1873-1958)で、1890年代にユザンヌが制作したいくつかの本の装飾を担当、この時代特有のアールヌーヴォー調に仕立てた。

Physiologie de la Parisienne contemporaine: État social • Le nu moderne • La toilette à Paris

La femme à Paris, dans ses différents milieux, états et conditions: Géographie de la femme à Paris • Les domestiques • Les ouvrières • Les marchandes et boutiquières • Demoiselles et employées de magasin • Les dames d'administration • Femmes artistes et bas-bleus • Les femmes de théâtre: comédiennes, chanteuses, danseuses, écuyères, acrobates • Les femmes de sport et les gynandres • La bourgeoisie parisienne

La femme hors des lois morales: La basse prostitution • La prostitution bourgeoise • La prostitution clandestine • Les phrynés actuelles

Psychologie de la contemporaine: Fille, femme et mère



## 『パリのモード 女性の嗜好と美学の多様化 1797-1897』

◆ Octave Uzanne

**Monument esthétique du XIX<sup>e</sup> siècle. Les Modes de Paris: Variations du goût et de l'esthétique de la femme, 1797-1897** (1898)

ISBN 978-4-86340-296-6 • 356 pp., incl. 103 col. pp. • B5判

全1巻定価 本体 42,000円+税

おそらくもっとも知られているユザンヌの著作。これ以前に女性のファッションについての *Son altesse la femme* (1885)、*La Française du siècle* (1886)、*La femme et la mode* (1892) を出しているが、本書がこれら三冊の本の最新版的なものである。この4冊は基本的に同じ内容のもので、次回作のたびに少しだけテキストを最新化し改題、また挿絵は異なる画家を用いた。いずれも美しいコレクターズアイテムであるが、ここでは最新バージョンに相当する本書を復刻。

18世紀の終わりから19世紀の終わりまで、およそ100年間のパリの人々のファッションを年代順に紹介する内容。1100部の限定出版で、本文中に施された挿絵のほか、100点のカラー別丁はともに François Courboin (1865-1926)によるもの。Courboinは美術史家で批評家、また文芸作品を中心に版画を制作したが、基本的にはフランス国立図書館の版画部門の職員（1885年から1925年、1906年からは部長）であった。

表紙は詩人でアルヌーヴォー派の画家、デザイナー George Auriol (1863-1938)による。

Les derniers jours du XVIII<sup>e</sup> siècle: Licences du costume et des mœurs sous le Directoire

L'aurore du XIX<sup>e</sup> siècle: Types et manières des déesses de l'an VIII

Sous le Premier Empire: Le luxe féminin à la Cour et à la ville

Les costumes, les salons, la société sous la Restauration, 1815-1825

Les Parisiennes de 1830: Usages et raffinements des élégantes de l'âge romantique

La fashion et les fashionables de 1840 à 1850

Le Panorama des modes de 1850: Les tapageuses et les mystérieuses

La vie parisienne du Second Empire: Mondaines et cocodettes

La femme et les modes au début de la Troisième République, 1870-1880

La Parisienne contemporaine: Sa psychologie, ses goûts, ses modes



### ◆著者について

著者オクターヴ・ユザンヌ (1851-1931) はオセールの豊かな商家に生まれた。エリート教育を受けて育ち、1872年に遺産を相続、以降本に関する道を追い求めるようになる。パリのアルセナル図書館の常連となり、Charles Monselet や Paul Lacroix らの知己を得る。1870年代に18世紀の埋もれた作家たちの作品を出版、キャリアをスタートさせた。彼の全盛期は1880年代から1890年代で、印刷から植字、製本、装丁まで、職人や芸術家を交えて制作する、これまでにない革新的で豪華な本を作り出すことに心血を注いだ。またこの間に愛書家向け雑誌を3誌創刊、また愛書家協会を2つ設立した。出版に関する新しい様々な技術に強い関心を持ち、刊行した本の多くは、収集家向けの豪華本で傑作と言える。まさに *livre d'artiste* の草分け的な存在であったが、20世紀に入った頃には人気は衰えて、小型で安価な出版しかできなかった。

ユザンヌはジャーナリスト、エッセイスト、小説家としても幅広く活動した。現在では革新的な出版活動と共に、彼のもう一つの関心ジャンルであった女性にまつわる本で知られている。1790年代から1890年代にかけてのパリの女性の服飾などを書いており、本復刻ではそうした4冊を取り上げた。

当時は Remy de Gourmont、Barbey d'Aurevilly、Félicien Rops といった人々から認められ、近年では、世纪末ないしベルエポックの典型的な人物——独身貴族、芸術や文学、女性についての美を語る耽美主義者——と評される。

# 愛書家が紡ぐパリの女性と服飾流行

新實 五穂 ●お茶の水女子大学准教授

ある著作の序文には、フランスの服飾流行に関して、次のような一文が存在している。「かつてのモードは常に好奇の対象で、少し古臭いモードは滑稽である。ただ現在のモードだけが生活を活気づけ、その魅力や魅惑を強要し、疑問視されることはない。」この文章が、1898年に刊行された『パリのモード 女性の嗜好と美学の多様化 1797-1897』の序文に寄せられたものであることを知ると、19世紀末のフランス女性にも21世紀の日本女性にもある種同等の心性が共有されているに違いないと考えてしまう。そして現代に通底する近代フランスの風俗を理解する上で、同書の著者であるオクターヴ・ユザンヌ (Octave Uzanne, 1851-1931) の存在を、さらには彼が著した論考を軽視することはできないという思いを強くする。彼の作品を通して、服飾史家はフランスモードの実情に触れ、衣服とともに用いられる装飾品にまつわる歴史を知るであろう。また女性史家はパリで暮らす多様な階層の女性たちがどのような職業に就き、生活の糧を稼いでいるかを認識すると同時に、彼女たちがいかなる社会規範や倫理観の下で生きているかを理解するであろう。加えて、彼の著作の中には色刷り版画が付属しているものがあり、当時の風俗版画を検討する美術史家にも役立つであろうし、彼の著作には文学作品が少なからず引用されており、フランス文学者が参考すべきものであることは間違いないであろう。いくつもの学問分野からの意義を見出せるユザンヌの著作が、このたび四作品もまとめて復刻される運びとなったことは、非常に歓迎すべき事柄である。

今回、復刻される四作品は出版された時代順に、『扇』・『パラソル 手袋 マフ』・『パリの女性 我々の同時代人 さまざまな階層・境遇・環境におけるこの時代のパリジェンヌ』・『パリのモード』である。1882年に刊行された『扇』と同作の成功に続き、翌年に刊行された『パラソル 手袋 マフ』は、いずれも女性を日常的に彩る小さな装飾品に着目し、ものとしての歴史をまとめた作品になっている。多様な地域を対象としながら、関連する文学作品の描写を収集して、扇や日傘・雨傘、手袋・ミトン、マフ・毛皮について記述された著作は、まるで文献目録を集成したかのような内容である。そこに中世の写本装飾を思わせる少し褪せた色調の挿絵が、画家で版画家の筆名ボール・アヴィルこと、エドゥアル=アンリ・アヴィル (Edouard-Henri Avril, 1849-1928) の手によって施され、二作品に豪華で壯麗な印象を与えている。

これらの刊行から10年以上を経た1894年に『パリの女性』が、1898年に『パリのモード』が、色刷りの挿絵や版画が付される形式で出版されている。前者の『パリの女性』は、パリで生活を営む女性たちを余すことなく記述する目的で、多種多様な職業や階層に目を向けていることが全4章、全18節の構成からうかがえるため、ここで目次を紹介しておきたい。第1章「同時代人の生理学」は「同

時代のパリジェンヌ」、「ヌード」、「パリの装い」という3節で、女性の身体や装い、お洒落や贅沢について述べられている。続く第2章「さまざまな階層・境遇・環境におけるパリの女性」は「パリ女性の地理学」、「使用人」、「労働者」、「商人」と小売店主、「商店の女性と従業員」、「行政機関の女性」、「女性芸術家と文学かぶれの女性」、「劇場の女性、喜劇役者・歌手・踊り子・曲馬師・曲芸師」、「スポーツをする女性と両性具有者」、「パリのブルジョワ階級」という10節で、19世紀後期のパリで女性たちに許された職種やその仕事内容、労働環境が明瞭に綴られている。さらに第3章「倫理的規範から外れる女性」は「下層の売春」、「ブルジョワの売春」、「秘密の売春」、「現在の売春婦」という4節で、下層から上層までの売春婦の状況や彼女たちの手練手管が紹介されている。最後の第4章「同時代人の心理学」は「同時代人、娘・妻・母」という1節で、家庭婦人としての女性のあるべき姿が示されている。このような女性たちの姿を如実に描いたピエール・ヴィダル (Pierre Vidal, 1849-1913?) の版画が、およそ各節ごとに1枚掲載され、当時の女性たちが置かれていた状況を補足している。後者の『パリのモード』は19世紀の服飾流行の変遷をテキストで辿りながら、挿絵画家フランソワ・クールボン (François Courboin, 1865-1926) の手による100枚の服飾版画を活用することで、パリの都市風景や社会的な出来事とともに、主に女性の装いを提示している。たとえば、1797年の版画においてロンシャンで1頭立て競馬車に騎乗する古代趣味の女性の装いを、1842年の版画においてブローニュの森での女性用乗馬服 (アマゾーズ) を、1865年の版画においてエドゥアル・マネの作品《オランピア》を観賞する女性のクリノリンスタイルを、1871年の版画においてパリ・コミューンの通行許可書を提示する女性のバッスルスタイルを、1896年の版画において世纪末の新スポーツに興じる女性のサイクリング姿を描いている。とりわけ秀逸なのは「版画室にて、かつてのモードを探し求めて、1897年」というタイトルが添えられた、100枚目の版画である。19世紀末の装いをした二人の女性が図書館の版画室で服飾版画を見ながら会話を交わす光景が描かれており、ご夫婦たちが服飾流行の歴史を学び、懷古趣味的な装いの探究をしているようにも、読者がユザンヌの著作を見ているように見受けられる。いずれにせよ、彼の名を最も知らしめた著作の一つである『パリのモード』は、服飾こそが社会の中で支配的な観念の際立った表徴であることを改めて教えてくれる、19世紀フランス社会の縮図と言える。



【発行】

Athena Press  
株式会社 アティーナ・プレス



〒112-0011 東京都文京区千石4-33-18

Tel: 03(3946)2117 Fax: 03(5977)8026

E-mail: eigyo@athena-press.co.jp

<http://www.athena-press.co.jp>

【取扱店】